

## 「アートと地域と教育」

(2023年12月1日@鹿児島大学ラーニング・コモンズ1) 報告

法文学部人文学科多元地域文化コース 准教授 太田 純貴

「地域とアートの相互作用を発掘・検証しその可能性を探究するプロジェクト」の一環として、アートと地域と教育、および三者の関係について多角的に知見を獲得し議論することを目的に、坂本顕子氏（熊本市現代美術館学芸員）と早川由美子氏（NPO 法人 PandA 理事長）を登壇者に迎えたトークイベント「アートと地域と教育」を2023年12月1日（金）（於・鹿児島大学法文学部ラーニングコモンズ1）に開催した。

早川氏からはNPO 法人立ち上げの動機からアートマネジメントへと至る経緯とその展開について、鑑賞者開発、機関誌の発行、展覧会等企画運営事業、ワークショップ事業、アーティストマネジメントとしての支援事業などの事例をご紹介いただきつつ、お話しいただいた。

坂本氏からは、「アートパス」「アートプログラム」「1年生カード」のような教育普及事業に加え、「街なか子育てひろば」「文化政策としてのご用聞き」「福祉と芸術」「認知症の方やそのご家族を対象とした対話型鑑賞」「フレンドリーオンライン」「やさしい日本語」への取り組みといったアートコミュニケーション、地域や行政との連携の事例についてお話しいただいた。

両氏の立場は異なるが、アートを消費するすなわち一過性の流行として捉えて使用するのではなく、地域や受け手（の多様性）といった複数の文脈にアートを合わせながら根付かせていくための手法や視野を提供しようとしている姿勢は共通していたように思われる。

今回の両氏のご発表は、鹿児島大学法文学部で蓄積されてきた研究成果や知見に眼

を向ける目契機ともなるのではないだろうか。やさしい日本語やアートマネジメント、アートと社会教育などについては、本学部で一定程度以上の成果や知見の積み上げが存在する。これらに目を向けることは、地域における大学の位置付けの再考・評価、研究成果と地域の活動との相互作用の確立に繋がるだろう。

